

古今東西の劇場の歴史がわかるミニミュージアム「てあとろん」、静岡県舞台芸術公園に4月オープン！



# せかいの劇場ミニミュージアム てあとろん

THE MINI MUSEUM OF  
WORLD THEATRE IN SHIZUOKA THEATRON



SPAC-静岡県舞台芸術センターの活動拠点のひとつ、静岡県舞台芸術公園は、「自然との共生・調和」をコンセプトに整備され、園内には3つの劇場が建てられています（野外劇場「有度」、屋内ホール「楢円堂」、稽古場棟「BOXシアター」）。建築家・磯崎新氏の設計によるこれらの劇場には、古代ギリシアから中世ヨーロッパのルネサンスを経て、現代へと変遷してきた劇場建築のエッセンスがふんだんに盛り込まれています。そんな「生きた劇場博物館」でもある舞台芸術公園、その背景となる世界の劇場の歴史を詳しく紹介するミニミュージアム「てあとろん」がこの度オープンいたします。

[テアトロン：theatron]は、ギリシア語で「見物する場所」、広くは「劇場・演劇」を意味します。古代から現代にいたるまで「演劇」は私たち人類とともにあり、世界中のどんなところにも演劇を上演するための場所＝「劇場」がありました。時代とともにさまざまに変化し、現代へと受け継がれてきた劇場。それらを巡るちいさな旅にお出かけください。



「てあとろん」製作風景 2022年6月～2023年3月

<せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」> に関するお問い合わせや取材のご希望は、  
SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 坂本・西村 までご連絡下さい。  
Tel:054-208-4008(静岡芸術劇場) / Fax:054-203-5732 / E-mail: koho@spac.or.jp

## せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」

### THE MINI MUSEUM OF WORLD THEATRE IN SHIZUOKA

#### 来館案内

開館時間：10:00～18:00 [休館日：月曜(祝日の場合は開館/翌日休館)、休業日及び年末年始]

\*ふじのくに⇒せかい演劇祭の期間中(4/29～5/7)は無休

入館無料

お問い合わせ：054-208-4008(公園本部 | 10:00～18:00 休業日をのぞく)

住所：静岡県静岡市駿河区平沢 100-1

#### 「てあとろん」を知るためのキーワード

##### ◎ 展示解説

古代ギリシアから始まりルネサンス、そして近・現代まで、劇場建築史の詳細な解説を行うのは、劇場の建築計画を専門とし『劇場の構図』の著者である清水裕之氏。演劇の発展と共に変化を遂げた劇場の構造と特徴を軸に、文化的・社会的背景を絡めた読み応えのある解説・コラムが図版とともに所狭しと展開しています。同時にわかりやすいキーワードも所々用意され、演劇初心者からより深く知りたい方まで充実の展示内容となっています。

##### ◎ 書き割り

空間を波打つように配置された展示パネル。これは舞台セットとして使用される「書き割り」(背景を描いた大道具の壁)からイメージされています。「古代ギリシアから変遷してきた劇場の歴史を、一つの長い絵巻物のように見せたい」、SPAC 作品で空間構成を行う建築家の木津潤平氏のコンセプトにより、展示パネル全体を一つの舞台装置に見立て造られています。茶畑があるテラスから見ると、ミュージアム展示がまるで舞台のように感じられます。

##### ◎ 下絵と貼りませ展示

舞台美術家・深沢襟のデザインによる手仕事の壁画も、このミュージアムの大きな見どころの一つです。パネルに描かれたツートーンの静かな幾何学図形は、しだいに解けて自由に動き、色付き、連なり、そして小さな人となって劇場を組み上げていきます。「これは“先人が描いた屏風絵”で、後世の人々がそこに劇場の歴史を貼り雑ぜし始めた…」、木津氏のそんなコンセプトから、劇場の歴史にまつわる展示が下絵の上に貼り重ねられています。

##### ◎ ポスター展示

パネルと向かい合う壁には、SPAC でこれまで上演された舞台作品のポスターやチラシが所狭しと貼られています。これは、フランスのアヴィニョン演劇祭やイギリスのエディンバラ・フェスティバルなどで、街頭の至るところに貼り重ねられたポスターをイメージし、SPAC の俳優たちの手で一枚一枚貼られています。“貼り重ねることの美学”は、ここにも現れています。

##### ◎ テーブルと椅子

パネルの幾何学図形のモチーフは、ミュージアムの中に置かれたテーブルにも描かれています。もともとこの場所は「カチカチ山」の名称で、公園に立ち寄りの方の休憩所として親しまれてきました。そこにあったテーブルを、コミュニケーションデザイナーのYORIKO氏のデザインのもと、SPACの俳優、創作・技術部スタッフがリフォームしました。また古くなった椅子は、座面に舞台上で使用されるロープが張られ、座り心地の良い椅子に生まれ変わりました。

こうして、劇団 SPAC が創るミニミュージアム「てあとろん」が誕生しました。

2023年4月16日開館

---

<せかいの劇場ミニミュージアム「てあとろん」> に関するお問い合わせや取材のご希望は、

SPAC-静岡県舞台芸術センター 広報担当 坂本・西村 までご連絡下さい。

Tel:054-208-4008(静岡芸術劇場) / Fax:054-203-5732 / E-mail: koho@spac.or.jp

## 【てあとろん 創設メンバー】

コンセプトデザイン・内装設計・全体監修：木津潤平  
常設展・監修・執筆：清水裕之（名古屋大学名誉教授）  
常設展・編集：久保田梓美  
中国伝統劇場テキスト執筆：銭 強（東南大学建築学院教授）  
グローブ座模型監修：高田一郎  
テーブル・グラフィックデザイン:YORIKO

## SPAC

ドローイングデザイン：深沢 襟  
環境音楽：棚川寛子  
衣裳・カーテン・人形デザイン：駒井友美子  
ドローイング：塚本かな、山崎 馨、佐藤洋輔、吉田裕梨、赤松直美、春日井一平、鈴木真理子  
パネル・テーブル製作：吉見 亮、神谷怜奈、葉 佳欣、布施安寿香、春日井一平、宮城嶋開人、宮城嶋遥加  
常設展図版編集：仲村悠希  
常設展展示作業：春日井一平、鈴木真理子  
環境音楽演奏・環境整備：春日井一平、木内琴子、貴島豪、鈴木真理子、三島景太、宮城嶋遥加、吉見 亮  
ポスターウォール製作：武石守正、たきいみき、小長谷勝彦、ながいさやこ、布施安寿香、山崎 馨、山崎皓司  
ロープチェア製作：貴島 豪、吉見 亮、山崎 馨  
屋内整備：館野百代、吉見 亮、神谷怜奈、赤松直美、桜内結う  
衣裳・カーテン・人形製作：清 千草、山本佳奈、牧野紗歩  
模型メンテナンス：赤松直美  
録音・編集：澤田百希乃  
音響セッティング：春日井一平  
アートワークマネージャー：内野彰子  
事務局：望月勝司  
制作：成島洋子、坂本彩子、仲村悠希、高林利衣

「カチカチ山ミニミュージアム」企画監修／ SPAC 芸術総監督 宮城 聡

## ◆静岡県舞台芸術公園 Shizuoka Performing Arts Park

舞台芸術公園は、日本平北麓のなだらかな丘陵<sup>きゅうりょう</sup>に位置し、東京ドーム4倍（約21ヘクタール）ほどの広さを持つ緑濃い園内に、本部棟事務所、野外劇場「有度」、屋内ホール「楢円堂」、稽古場などが点在するSPAC-静岡県舞台芸術センターの活動拠点です。静岡県の舞台芸術振興と、県民文化の向上に寄与することを目的とし、世界に通用する舞台芸術を創造するとともに、舞台芸術の発展に必要な人材の育成等を図るため、静岡県によって整備されました。（1997年竣工）舞台芸術公園は、「自然との共生・調和」をコンセプトに整備され、園内には茶畑や果樹園なども点在し、四季折々の木や草花を楽しむことができます。また劇場などの建物は日本平および公園内の景観を損なうことのないよう地形を生かした配置計画がされています。建築家・磯崎新や針谷設計事務所によって設計された劇場群は、歴史的な劇場建築の特徴が散りばめられた空間であり、静岡を訪れた世界中の舞台芸術家たちを魅了してきました。また、公園内で創作されたSPACの舞台作品は国内外で高い評価を受け、ギリシア、ロシア、フランス、イタリア、ベルギー、オーストリア、スイス、カメルーン、サウジアラビア、アメリカ、コロンビア、中国、韓国など世界各国から招聘され、公演を行なってきました。静岡から世界へ、舞台芸術公園から発信し続けています。



野外劇場「有度」



屋内ホール「楯円堂」



稽古場棟「BOXシアター」

◆ミュージアム展示執筆者プロフィール：

清水 裕之 Hiroyuki Shimizu

名古屋大学名誉教授。建築計画、都市・地域計画を専門とし、新国立劇場、東京芸術劇場、彩の国さいたま芸術劇場、世田谷パブリックシアター、愛知県芸術劇場、ゆだ文化創造館、石垣市市民会館など多数の公立文化施設計画に参画した。創造型施設の提案、舞台技術者の設計参加の必要性を説くなど、設計水準の向上に貢献。市民参加型の公立文化施設計画も多数コーディネート。著書に『劇場の構図』『21世紀の地域劇場』『新訂アーツ・マネジメント』など。